

「『こんにちは県議会です』～高校生との意見交換会～」開催概要

- 1 開催日時 平成29年8月31日（木）午後1時30分から午後3時30分
- 2 開催場所 議会棟 第1特別会議室
- 3 出席者
 - 県下14高校の1～3年の生徒42名、校長、教頭、教諭等の学校関係者
参加生徒・・・北部、長野西、長野東、長野工業、長野南、篠ノ井、上田、小諸、
駒ヶ根工業、松川、蘇南、梓川、松本県ヶ丘、松本深志高校
 - 垣内基良議長、諏訪光昭副議長
 - 広報委員
丸山栄一議員、堀場秀孝議員、小山仁志議員、高村京子議員
 - 会派選出議員
宮本衡司議員、堀内孝人議員、酒井 茂議員、丸山大輔議員、荒井武志議員、
今井愛郎議員、花岡賢一議員、小川修一議員、山口典久議員
- 4 開催内容
プレゼンテーション、グループディスカッション、意見・感想等の発表
- 5 プレゼンテーション及び意見交換会テーマ
 - ① 「若者を長野県へ（将来どこに住みたいか）」
 - ② 「高校生とドローン」
 - ③ 「学校と地域の関わりはどうあるべきか」
 - ④ 「SGH活動を通じた近未来の高校教育」
- 6 参加者 97名（議員15名、生徒42名、傍聴者40名（学校関係者含））



○開会

(司会：諏訪副議長)

皆さんこんにちは。

定刻となりましたので、ただ今から「『こんにちは県議会です』～高校生との意見交換会～」を開会いたします。

本日の司会を務めさせていただきます、長野県議会副議長そして広報委員会委員長を務めております、諏訪光昭でございます。よろしくお願いいたします。

本日の行事開催の経過につき簡単に申し上げますが、本県議会の広報委員会において、県内高校生の皆さんに、より県議会を身近に感じてもらえるための検討を進めていたところ、県高等学校長会から、「生徒の主体性を育む夏合宿」での成果を県議会の議員に生徒から直接発表したい、という提案があったことから、議員との意見交換をセットにして、県議会及び県高等学校長の主催で実施することにしましたものです。

全県下から多くの皆様にご参加いただき、誠にありがとうございます。

それでは、県議会を代表いたしまして、垣内基良長野県議会議長からごあいさつ及び県政報告を申し上げます。

○主催者あいさつ・県政報告

(垣内議長)

みなさんこんにちは。

大変若い高校生の皆様方を前にして、私も50年前は皆さん方と同じ年恰好でありまして、もうあれから50年経ったのかなという風を感じております。

本日は、「こんにちは県議会です」を開催いたしましたところ、多くの皆さんに御参加いただき、ありがとうございます。

また、開催にあたりまして、長野県高等学校長会の皆様には、本県議会と共に主催者として多大な御協力を賜りました。

この場をお借りし、改めて厚く御礼申し上げます。

さて、本日の意見交換について触れる前に、県政について若干の報告をさせていただきます。お手元に6月定例会の概要を掲載した広報紙をお配りしてございます。

6月定例会では、皆さんに関わりの深い、これからの高校教育のあり方、次期高等学校再編計画の方向性などについて議論がありました。

具体的には、記載のとおり、再編計画策定にあたっての地域ごとの合意形成、県内中学生の県外高校への進学対応策、学びの改革の内容などについてであります。

これらは今後も議論が行われることとなりますので、引き続き注目していただきたいと思います。

ます。

さて、本日は、まず皆さんが探究的な学びとして主体的に取り組んだ成果についての発表をお聞きし、その後、意見交換をするということで、出席した議員は皆大変楽しみにしております。

グループ・ディスカッションによる意見交換は、昨年度、松本県ヶ丘高校で開催した「こんにちは県議会です」で初めて導入したのですが、グループの中で意見を積み重ねていく作業は、参加者から高い評価があったと聞いています。

本日も、普段皆さんが考えていること、また、高校生の目線による柔軟な発想からの意見をお聞きしたいと思いますので、是非、臆することなく発言してほしいと思います。

また、県議会議員との意見交換を通して、皆さんにも、何かしら得るものがあるものと確信しております。

間もなく選挙権を得ることとなる高校生の皆さん、すでに選挙権をお持ちの皆さんもいるかもしれませんが、選挙権は、皆さん方の先人たちの不断の努力の結果、得られたものであります。

改めて認識していただきたいことは、選挙権を行使する皆さんは、政治の主人公そのものであるということでもあります。

本日の経験を契機として、県議会や県政に対する関心を深め、「自分自身が長野県づくりに参加する」という気持ちを強く持っていただくことを期待しております。

また、今回の「こんにちは県議会です」をはじめとして、引き続き、より開かれた県議会を目指して取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆様方の一層の御協力をお願い申し上げます。

(諏訪副議長)

続きまして、同じく主催者である長野県高等学校長の会長で上田高校校長の内堀繁利会長よりあいさつをお願いいたします。

○主催者あいさつ（長野県高等学校長会長）

(内堀会長)

みなさんこんにちは。

ただ今紹介に預かりました上田高校の内堀であります。

今日に至る経緯については先程諏訪副議長さんからお話がありましたし、今日の内容についてはただいまごあいさつの中で垣内議長さんからお話がありました。重なる部分は省きまして、この会に向ける校長会あるいは校長たちの思いについて一言申し上げたいと思います。

実は、昨年来、この「主体性を育む専門委員会」という委員会でいくつか取組やそれから研究などをしてきたをわけですけれども、その中の一つに、先程議長さんからもお話がありましたけれども、選挙年齢が18歳以上に下がったことによって高校生である生徒の中にも選挙権を得るものが出てきて、その中で、主権者教育ということが学校の中でかなり大きなウェイトを占めるようになりました。とともに、昨今行われている国の大きな教育改革の中で、主体性を育むという部分、それから地域課題、あるいは社会の課題を、自分たちでどこに課題があるかということを考えて、一緒になって仲間とともに課題の解決方法を探っていく課題探求型、あるいは課題研究型の取り組みも各地で始まっています。

さらには、高校生の中には、先生や親から言われずとも、自分でアンテナをはって、ここに行ってこんなことをやってみようという生徒も各学校で大変多く出てきています。そういう中で、社会とつながったリアルな学びということを高校でやっていく必要がでてきています。

そんな中で、実際にこの長野県の県議会の皆さんがどのようなことを考えておられ、また県政というものがどんなふうに行われているのかということを知るとともに、めったにない、こういう直接的に県議のみなさんとお話できる機会を設けていただいて、そういったことについて、高校生が直接的に話すと、そういうことも非常に大きな勉強になるのではないかなというふうに考えてお願いしてきたところでございます。

そのことに対しまして、諏訪副議長さんに、実は、ご本人はおっしゃいませんでしたが、ご相談申し上げたところ、それはいいじゃないか、ということで、垣内議長さんをはじめ、各党派、各議員さんのご理解を得て、そしてまた、校長会の、主体性の委員会の校長先生たちとそれから、議会事務局の皆さんが事務的なすり合わせをして今日を迎えているということでもあります。

こうやってみると、直接お話をする県議の皆さんと高校生だけでなく、その後ろの人数が同じくらいいるんですね。だからそういう関心の高さも感じているところであります。

高校生の皆さんには、日頃思っていることを普通に話してもらいたいなというふうに思っております。また日頃、こんなことを聞いてみたいということがあったら、遠慮なく聞いて、多分、何を聞いても怒らない皆さんだと思いますので、疑問があったら、こんなこと聞いちゃまずいかなとかっていう、変な「忖度」をすることなく、聞いていただければと思っていますので、今日の会が大成功になることを期待して、冒頭のあいさつといたします。

本日は本当にありがとうございました。またよろしく願いいたします。

○出席議員の紹介、進行方法説明

(諏訪副議長)

ありがとうございました。

それでは、本日出席の県議会議員を紹介します。

まず県議会広報委員会、丸山栄一副委員長。

(丸山栄一議員) よろしくお願ひします。

(諏訪副議長) 続きまして堀場秀孝広報委員。

(堀場秀孝議員) よろしくお願ひします。

(諏訪副議長) 続きまして小山仁志広報委員。

(小山仁志議員) よろしくお願ひします。

(諏訪副議長) 続きまして高村京子広報委員。

(高村京子議員) よろしくお願ひします。

(諏訪副議長) 各会派からご出席いただいております。自由民主党県議団 宮本衡司議員。

(宮本衡司議員) よろしくお願ひします。

(諏訪副議長) 同じく堀内孝人議員。

(堀内孝人議員) よろしくお願ひします。

(諏訪副議長) 同じく酒井茂議員。

(酒井茂議員) よろしくお願ひします。

(諏訪副議長) 同じく丸山大輔議員。

(丸山大輔議員) よろしくお願ひします。

(諏訪副議長) 続いて、信州・新風・みらい 荒井武志議員。

(荒井武志議員) よろしくお願ひします。

(諏訪副議長) 今井愛郎議員。

(今井愛郎議員) よろしくお願ひします。

(諏訪副議長) 同じく花岡賢一議員。

(花岡賢一議員) よろしくお願ひします。

(諏訪副議長) 新ながの・公明 小川修一議員

(小川修一議員) よろしくお願ひします。

(諏訪副議長) 日本共産党県議団 山口典久議員

(山口典久議員) よろしくお願ひします。

(諏訪副議長) 以上であります。

では、今日の進行方法について説明いたします。

先ず生徒の皆さんから5つの課題について、4分以内でプレゼンテーションをしていただきます。

その後、生徒の皆さんの6つのグループの中に議員が加わり、プレゼンテーションで発表の

あったテーマに関して意見交換を行います。生徒の皆さんが予めグループごとに、話し合うテーマを決めてありますので、その順番で50分間、自由にグループ・ディスカッションをします。進行は各グループの担当の生徒さんをお願いします。

意見交換では、必ずしも結論まで求めるものではありませんが、残り時間約15分程度のところで、まとめに入るアナウンスをしますので、グループ内で話し合った内容を集約した上で、約2時50分から、各グループの発表担当の生徒さんから、発表していただきます。

その際、グループごとの持ち時間を5分間とし、その時間内で、同じグループの代表議員1名からも、一言感想を述べていただきたいと思います。

以下同様に、6グループまで順番で発表を行います。

進行方法についての説明は以上です。

なお、本日の、「こんにちは県議会です」は、ビデオ撮影を行い、あわせて、概要を後日議会のホームページに掲載いたします。

また、報道の皆様をお願いいたします。

本日のプレゼンテーションや意見交換の様子の撮影については、予め生徒さん達のご了解をもらっています。

グループ・ディスカッション開始後は、取材する皆さんは意見交換に支障のない範囲で、会場内を移動してもらって構いません。

なお、終了後に生徒さんに直接個別に取材をされる場合には、新聞への掲載や放映する旨の確認をするなど、個人情報の保護には十分御配慮くださいますようお願いいたします。

それでは、高校生の皆さんのプレゼンテーションを始めます。スクリーンは2つありますので見やすい方をご覧ください。

○プレゼンテーション

まずは、1番目の生徒さんです。テーマは、「将来どこに住みたいか（若者を長野県へ）」です。これは「生徒の主体性を育む夏合宿」において他校の生徒と情報や意見の交換をしてまとめた提言です。

松本深志高校の発表者の方、お願いします。

（松本深志高校 発表者）

私たちにとっては夏休みの宿題を必死でこなしていた日々は10日も前に終わり、全国的には夏休みの最終日の今日、長野市の最高気温が24度と秋の訪れを感じさせる日々となっています。

本日、将来はどこに住みたいか、から、長野県で働く若者をふやす方法を考えるというテーマでプレゼンさせていただきます。よろしくお願いします。

それでは、始めさせていただきます。

初めに、私がこのテーマを話し合いたいと思ったきっかけはキャリア研修です。

長野県内は医師の数が不足していて、医師がいない診療所もあることを知りました。そして、これは医師だけの問題ではなく、全ての職業に当てはまり、さらに将来のことも考えると、若い人の人材不足が問題ではないかと考えました。そこで、あと数年で働きだすだろう高校生にこの問題を話し合ってもらい、長野県の現状をどうすればよいのか考え合いたいと思いました。

次に、このテーマについて話し合った方法について説明します。

8月5日、6日に行われた「生徒の主体性を育む夏合宿」において、このテーマを話し合いました。

まず、熟議1では、集まった高校生に指定されたテーマについて20分話し合いをしてもらい、次の熟議2では、8つのテーマの中から気になったテーマを選び、より深く話し合いを行いました。

熟議1では、まず高校生に将来どこに住みたいかを聞いてみました。すると、このような結果になりました。都会に住みたい人、県内に住みたい人、それぞれにしっかりと理由があり、また決まっていない人も3分の1程度いました。

次に、都会に住みたい人がどうしたら長野県に残ってくれるのか考え、このような意見が出てきました。

その後行った熟議2では、このテーマを選んだ人の共通意見として、できれば多くの高校生に長野県で働いてほしいという考えが出てきました。そして、より多くの人を呼び込むために、都会に住みたい人ではなく、まだ決めていない人を呼び込む方法を考えました。

以下が具体案になります。

まず、初めの案は、将来の予想がつかないという人たちが多かったため、例として県内ではこのように働いているということを教えてもらい、判断材料にしてもらいたいと考えました。

次に、交通網の整備では、車がないと生活できなくて、老後のこと、マイカーを持っていない人たちのことを心配する声が多くあり、このように思いました。

テーマパークについては、一見ふざけていると思いますが、長野県は遊びにくいという高校生の意見を取り入れ、さらに雇用がふえるのではないかと期待しています。

次の意見では、例えば松本に住んでいるのに上高地に行ったことがない、長野県についてよく知らないために、まだどこに住みたいか決まっていない人を減らし、県内就職につなげられるのではないかと思います。

次に、育児、教育についてです。

今、共働きの家庭がふえていて遠い保育園へ行くのが負担になったり、行きたい高校があっても通学規制があることで、県外に行ってしまう人を減らせると思いました。

次に、長野県全体として労働環境がよくなれば、多くの人が長野県で働きたいのではと思いました。

最後に、特別な企業説明会を開くことを提案します。普段は会社から学生へアプローチをすると思うのですが、この説明会では、学生から自分はこんな仕事がしたいとか、自分はこんなことができるんだということを企業に伝えることで、やりたいことを見つけて、長野県で働く人をふやせると考えました。

以上が具体案になります。

一緒に夏合宿で話し合った皆さんも、今お聞きいただいた皆さんもこの問題について考え続けていただきたいと思います。

御清聴ありがとうございました。

(諏訪副議長)

ありがとうございました。

続いて、2番目のテーマは高校生とドローンです。

駒ヶ根工業高校の発表者の方、お願いいたします。

(駒ヶ根工業高校 発表者)

皆さん、こんにちは。

私は高校生とドローンという内容で発表させていただきたいと思います。

高校生にドローンの話をすると、やりたい人が大学とかでやれば、私関係ないと言われてしまいますが、皆様が将来考えている職業にもこのようなものが使われており、将来皆さん関係していくのではないのでしょうか。

ちなみに、これが私の保有しているドローンですが、F550というのは550ミリという意味で、1キロの荷物を載せることができます。また、政府の成長戦略にもドローンを使っていくというものの具体策も示されています。空の産業革命と言われ、将来的には需要がふえていき、自分たちの生活には欠かせないものとなっていきます。

ところで、皆様はドローンの法律について知っていますか。

ドローンを扱うには航空法、電波法といった法律を守らなければならない、このような法律を守らないと警察に捕まってしまう可能性があります。このような法律や技術に無知な人たちが起こしてしまった事件の中に、皆様御存じだと思いますが、善光寺にドローンを落としてしまった少年がいたり、違法な電波を使って摘発された事業者、長野県内でも夜間飛行の許可を得ずに飛ばしていた人が書類送検されるという事案も発生しました。

このように大きな需要がありますが、個人や事業者までもが事件、事故を起こしてしまっ

いる現状があります。

そこで、これからドローンにかかわっていく中高生が、ドローンを飛ばすにはこんな資格が必要なんだな、ドローンにはこんな役割、機能があるんだなということを知ることが必要だと思いませんか。しかしながら、現状、ドローン自体を見たことのない人、ドローンが飛んでいるところを見たことがない中高生も多く、工業高校ですらドローンがありません。また、ドローンを操縦できる先生がいません。

また、具体的にはドローンの法律に関するものを公民や現代社会の授業で扱ってもらったり、地元のドローンを扱っている企業、大学、高校などが出前講座でデモフライト等を実施することで、ドローンに親しみが持ってもらえると思います。工業高校にドローンを配置することにより、技術、法律が学べます。

そして、中学校、高校に出前講座に行き、出前講座に行った先の方が企業で活躍、その企業で活躍している人が中学高校に出前講座に行くという循環や、企業の新しい機材を工業高校に提供してもらうなんていうことも考えられると思います。

このようなサイクルを使って航空防災体制もかかわってくると思います。こういうのも今、出ているドローンの災害は上空からの捜索や状況偵察が必要なことが多いです。

しかしながら、県の活動できるヘリは県警の2機しかありません。地震や土砂災害や夏の行楽シーズンなどに河川の水難事故等が同時に起きた場合、2機では対応しかねるのではないのでしょうか。ドローンでも上空からの偵察により、部隊の有効的に配置できたり、浮き輪や飲料水などを要求者に投下することもできます。私のドローンではセッティング開始から50秒でこのような写真を撮ることができます。ヘリに比べて大変早いです。

このようなドローンの扱いは出動、訓練、業務がある消防自治体には難しいと思います。そこで、県内のドローンを業務に使用している大学、高校の研究機関と防災協定を結び、災害時の空撮による上空からの災害状況確認や要求者の確認を行います。先ほどのサイクルに防災協定を入れることにより、さらに充実していくと考えます。

御清聴ありがとうございました。

(諏訪副議長)

ありがとうございました。

続きまして、3番目のテーマは、4番のテーマの学校と地域のかかわるわけですが、梓川高校の皆さんから他の学校には余りない特徴というテーマで発表をお願いいたします。

(梓川高校 発表担当)

梓川高校です。

私たちは、ほかの学校では余りない特徴と地域とのかかわりについて考えました。地域とは、松本市西部の波田地区を中心とする地域です。

まず、1年生のときに行われる福祉体験学習では、生徒全員が保育園、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、通所介護施設、障害者施設のそれぞれに行きます。保育園での体験ではご覧のようなことを学んできました。

また、2年生からコース選択が可能になります。教養コース、情報ビジネスコース、福祉コミュニケーションコースのいずれかを選択できます。それぞれのコースで行われている地域とのかかわりのある授業について紹介していこうと思います。

教養コースでは、選択の授業でフードデザインや子供の発達と保育でかかわらせていただくことがあります。去年はフードデザインで信州学を含み、郷土料理を教えていただいたそうです。

情報ビジネスコースでは、現在地元の波田にあるシュテルンという洋菓子店とコラボレーションをしています。ほかにもブランデーカステラの販売もしました。その売上金で発展途上国へ募金をしています。

福祉コミュニケーションコースでは、保育園実習に行ったり、手話を地域の方に来ていただいたりして習ったりをしています。実習があることによって、授業や理論などとは違う部分も感じられるそうです。

このほかにも部活動での交流があります。高校周辺の地区の文化祭やお祭りで、手芸部、美術部の作品展示をしたり、放送部はアナウンスもしています。

また、私たちの学校は約4割の生徒が就職をしています。就職者のほぼ全員が県内で働いています。進学した人でも卒業後は県内で働いている人が多いです。

生徒会では、地域の方にもしっかり挨拶ができるように挨拶運動や電車をおりてから国道を渡る生徒が危ないということで、歩道橋の渡り方のチェックなどを行っています。

このような活動から、梓川高校は地域に貢献したいと考える人が多くいるのだと思います。また、コース別の授業があるため、地域と深く交流ができるのだとも思います。梓川高校と地域ではお互いに連携していて、それを楽しみにしてくださっている方もいらっしゃいます。

これからも、このような活動を継続し、これからは地域や他校とも協力し合い、広い範囲での交通安全の呼びかけを広めたり、ほかにも新しい交流も広げていきたいです。

最後になりましたが、私たちから提案を四つさせていただきます。

一つ目は、普通高校への提案として、授業として地域とかわる活動を行うことです。それが難しければ、ボランティアの呼びかけなどをしてみてはいかがでしょうか。具体的な案としては私たちでは思いつきませんでしたので、この後の話し合いで時間がありましたら検討をお願いいたします。

二つ目は、歩道橋等での交通安全活動です。本校に限らず、学校周辺の細い道などで交通安全の認識を再度確認する意味でも呼びかけなどを行ってみてはいかがでしょうか。

三つ目は、地域高校では芸術鑑賞や地域との交流に交通費などの費用がかかります。その費用を一部でも県で負担していただければ、できることも多くなると思います。

四つ目は、少子化に向け学校と地域、企業がさらに密接な関係を築くことが大切だと思います。よりかかわりやすいように連携のための窓口を設けてみてはいかがでしょうか。

以上で梓川高校の発表を終わります。御清聴ありがとうございました。

(諏訪副議長)

皆さん、ありがとうございました。

続いて、4番目のテーマは学校と地域のかかわり合いはどうあるべきかであります。これも夏合宿の中でまとめられた提言でございます。

代表して松本深志高校の発表者の方お願いいたします。

(松本深志高校 発表者)

これから、先ほどのプレゼンとも重なるのですが、学校と地域はかかわったほうがよいのかについてプレゼントさせていただきます。

このプレゼンテーションは8月に行われた「生徒の主体性を育む夏合宿」の際の熟議の内容をまとめたものとなっています。熟議の内容をもとにプレゼンテーションを進めさせていただきます。

まず、そもそも学校と地域のかかわる意味とは何なのか考えてみました。

例えば、ある学校では地域の方々の力により2校の合併を免れたという事案もあったそうです。また、文化祭を行う際、御迷惑をおかけするという事で、地域の方々に挨拶をしに行ったとき、頑張っね、成功を祈っているよと声をかけていただき、とても温かい気持ちになりました。そういったことで地域に支えられて成り立っている部分があると考えました。

そのように支援をいただいている地域の方々には恩返しをすべきであり、支援している学校がどんな学校なのか知っていただくために情報を発信すべきだと考えました。

そう考えている中で、今、上げたようなかかわりがある学校とない学校とではどのような違いがあるのだろうと思い、意見を出し合って比べてみました。

かかわっている学校の現状としては、積極的にかかわる場を設けている、地域の方からの意見を取り入れ生徒が自主的に改善に努めている、地域の方を巻き込んだ活動を行っているというものが挙げられ、かかわっていない学校の現状としては、そもそもかかわりを持つ場所がない、地域の方々からの意見が生徒まで届いていないため改善できない、情報を伝える機会がな

いため地域の方からのイメージが固定されてしまっているというものが上げられました。

続いて、こうして見えてきた問題点をどう解決していくかというところに重点をおいて話を展開していきました。

すると、地域のボランティアに参加する、近くの農園の収穫のお手伝い、保育園のお手伝い、ディスカッションの場を設ける、登下校中の元気な挨拶など幾つかの方法が見えてきました。

この解決策を総じて考えると、ある一つの視点にたどり着きました。それは、一番学校を近くで見ている近所の方々に、生徒がみずから積極的にかかわっていく姿勢です。このような姿勢でおらず受動的な姿勢でいると、かかわりは生まれてこないからです。

以上のような考えを踏まえた、最終的な学校と地域はかかわったほうがよいのかという議題に対しての結論は、「持ちつ持たれつ近くあれ」となりました。地域と学校はともにギブ・アンド・テーク、もしくはウイン・ウインの関係にあるためにも、互いを近くに感じ、親密になることが大切だと考えたからです。

以上でプレゼンを終了させていただきます。御清聴ありがとうございました。

(諏訪副議長) ありがとうございます。

続きまして、5番目のテーマは上田高校のSGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）の活動を通した近未来の高校教育であります。発表をお願いいたします。

(上田高校 発表担当)

こんにちは。今回はこのようなプレゼンの機会を用意していただきありがとうございます。上田高校の3人です。

今回はSGH活動を通した近未来の高校教育についてお話したいと思います。

今回はこのような流れで、未来の長野県の高校教育について提言をさせていただきたいと思っています。

私たちが国から指定されたSGHとは以下のとおりです。詳しくはお手元の資料をごらんください。上田高校ではSGHに特化したプログラムが組まれており、その中には海外研修や海外からの留学生との交流など、さまざまなプログラムが組まれております。

先ほどのようなSGHのプログラムにより、私たちはメディアにより興味を持ったり、留学生との交流によって外国の方とのコミュニケーション能力がついたりなど、さまざまな恩恵が得られています。

この海外研修で感じたことで、やっぱり観光では感じられない、見られないことが見られたということ。あと、ごみ山があるのですけれども、写真の。ごみのおいがあるじゃないですか、生臭いにおい、あれを体感することですごい頭の中に記憶されたという記憶があります。

実は、このSGH活動というのはあと2年、2年しかないのです。これをどうするかということの提案が、次のスライドから出ます。

ここで、私がSGHの活動で出会った石川県七尾高校について紹介をします。

石川県七尾高校は、県が指定するNSH（ニュー・スーパー・ハイスクール）校で、NSHとは県指定のSGH校のようなものです。NSHには四つの目的があります。詳しくはお手元の資料をごらんください。七尾高校では実際に海外研修を行っていたり、SGHに似た活動を多く行っています。

ここでNSHの利点を考えました。NSHの利点としては、県指定のため自由度が高いことや、県独自の教育によるグローバルリーダー育成が可能なことです。

こういう活動は全てICT化のおかげでなったようなもので、この電子黒板もつい最近、夏休みに上田高校に配置されまして、このようなことが進むことによって、アニメーションなどを使った理解しやすい授業とか、時間短縮が図れるということがあります。こういうことができたのも、皆が全ては県議会の皆さんのおかげなのです。

さて、最後になりましたが、私たちはSGHの恩恵を受けて、今のようすばらしい教育を受けることができます。しかし、そのような教育は、まだ受けられている高校はまだ数が多いとは言えません。そして、私たちもあと2年後にはそのすばらしいSGH教育が終了してしまいます。

ならば、今回言ったようなNSHのような県独自の教育を県全体で普及していったら、上田高校やほかの高校に、より長野県に特化した教育を受ける環境をつくるのが、今の長野県に求められていることではないでしょうか。

そうすれば、県全体によりグローバルな視点を持った高校生がふえ、世界の長野と言われても過言ではない長野県になるのではないのでしょうか。

私たちの発表はこれで以上です。御清聴ありがとうございました。

（諏訪副議長） 皆さんありがとうございました。引き続き意見交換会に入ります。

各議員さんは参加する班のテーブルにお着きください。

○意見交換会

○意見・感想等の発表

（諏訪副議長）

皆さん、まだお話ししたいこともあるかと思いますが、ここで意見交換は終了し、各グループで話し合った内容の発表に移ります。

それぞれのグループごとに、5分間以内で、発表と代表議員の感想をお願いします。

それでは、まず1班から発表担当の生徒さん、お願いをいたします。

(1班発表担当)

1班では、長野県のアピールを他県にというのが出ました。

これについては、長野県のアピールで自然をアピールできたらいいかなと思っていて話に出て、阿寺溪谷という溪谷があるんですけども、そこものすごくきれいで、木曽のほうにあって行くときにちょっと行き方が車とかそういうのしかないんですけども、行って後悔がないというのは確かで、なのでそういう自然とかをアピールできたらよくて、その木曾まで行くときに車でしか行けないというのが不便なので、そこに交通とかで電車がなくて、そこまでの電車をつくったりとかすれば、そっちの阿寺溪谷に行ったときに車とかで混まないし人もいっぱい、長野県の地元の人が電車で来やすいのかなと思いました。

長野県のほかに、観光場所をもっとつくってほしいというのが出ました。

長野県、山とかものすごくきれいで、そういう観光も好きな方もいるんですけども、もうちょっと若者寄りの観光場所、仮にテーマパークだとして、そういうのをつくればいいと思います。

ほかに、長野県のアピールは気候がいいというのが出て、洪水はないし、台風とかもそんなに頻りに長野県は当たっていないので、そういうところからして、そういう気候がいいからこういうことができるよというのもちょっと考えたり、つくっていったりしていければいいと考えました。

これで、1班の発表を終わります。

(諏訪副議長) 続きまして、花岡議員のほうからお願いいたします。

(花岡賢一議員) ありがとうございます。

持ち時間で議論ができたのがテーマ一つしかできませんでした。やはり、一つのテーマに決めて絞って、きっちり議論できたということは、多分今日の参加の皆さんの財産かなというふうに思います。

今の発表は、若者を長野県へという形のところの議論がされたわけなんですけれども、やはり長野県に住みたいと思うために必要なものというところで三つ上がっている、流行のものが手に入る買い物ができるところと、給料が高い会社、それとテーマパーク。やはり、高校生の意見とすれば、テーマパークのようなものがあれば住みたいと思うのかなという意見が、やはり強いかなというふうに思いました。

その中で、議長がおっしゃっていたのは、利便性というものを追求するということですが、やは

り心の豊かさにつながっていくのかなというような話もありまして、高校生と50歳離れた人ときちんと話げたのかなというふうに思います。

ただ、テーマが1個しかできなかつたのは残念かなと思いますけれども、またの機会にしっかりできればいいなと思います。

ありがとうございます。

(諏訪副議長) 続いて、2班の発表の生徒さん、お願いいたします。

(2班発表担当)

2班では、高校で長野のよさを知る活動を通せば、大学で県外へ行ってもまた帰って来られるのではないかとこの考えが出てきました。また、県内でも就職できる、この職業ならできるとこのことをアピールしていく必要があるのではないかとこのことも出てきました。大学の説明会へ行くだけでなく、就職の説明会も行えばいいのではないかとこのことも出てきました。都会に行つて働きたいと思うのではなく、企業を長野県に置くのも必要ではないのかとこのことも出てきました。

SGHでは、研修旅行へ行つたときに交流によつてもの見方が変わつて視点も違つてきて、海外よりも日本のよさを見つけて帰つてくるということができるとこのことが出てきました。

ふだんの生活で思つていることを県議会の方と話すことができたのでよかつたです。

(諏訪副議長) 今井議員、お願いします。

(今井愛郎議員) 感想ということでお話をさせていただきたいと思つます。

高校生とお話をさせていただいて、私も高校生の親ではあるんですが、実際こんなことを話したことはなくて本当にいい経験ができました。

本当にくだらないこと、例えばトイレが洋式化されていないなんていうことが、こんなことがあるのかと。小中学校のときまではみんな洋式のトイレで行つているのに、高校に来たらトイレが洋式じゃないなんていうことも改めて聞いて、ただそういったこと、思つていることをぜひ今日いる高校生の皆さん、伝えていただきたいなと。

今日1回伝えるだけじゃなくて、また今後ぜひこういうことを我々県議であつたり、あるいは先生であつたり、いろんなところに伝えるチャンスがあると思つますから、皆さんの声をぜひ発信していつていただきたい。そんな感想を持ちました。

マザーテレサは、愛情の反対は憎悪じゃない無関心であるという言葉を使つています。やはり、長野県に愛を持っている、愛情を持っているのであれば、やはりずっと関心を持ち続けていただきたい、そんなことを感想として使つました。

ぜひ、これからも長野県に関心を持ち続けていただきたい、そんなことをお願いして感想にかえさせていただきたいと思います。

(諏訪副議長) それでは、引き続き3班の生徒さん、お願いいたします。

(3班発表担当)

3班では、ドローンについて話しました。

ドローンでまず出てきたのは、まずドローンというものを知る前に、首相官邸の事件や善光寺の事件が起きてしまったことで、マイナス面のイメージが根強くついてしまったことが、今の風当たりの強さの原因になっているというふうに考えました。

そこで、プラス面を押ししていくという部分で、やはり模擬フライトを行ったり、学校に出前講座に行くなどということを考えました。実例として、蘇南高校のほうでは土石流の災害現場の復旧工事にドローンを使っているところを見学に行き、ドローンがこのように使われているということを知ることもできたということもあり、このようなことを実施していけばいいのではないかというような話になっています。

あと、長野県に若者を呼び戻す、若者の件については、高原や温泉などの資源が長野県にはあるので、それを立ち返って帰ってくる機会をつくるという点や、あとは長野県のそのような高原や温泉などの資源でリラックスして仕事をしてもらうようなキャッチコピーをつけて、企業を誘致するみたいな話もあります。

そんなところです。すみません。

(諏訪副議長) ありがとうございました。では、引き続き小川議員、お願いします。

(小川修一議員)

私、3班のグループディスカッションに参加させていただきまして、今説明していただいた、発表した生徒さんの航空知識の豊富さには本当に圧倒されまして、ここのグループ全員がそれぞれ発言はあるんですけども、まずは発表者した生徒さんの話をしっかり聞いて、教えてもらおうというところから始まっておりました。

やはり、ドローン、メリット、デメリットをはっきりさせておきながら、まずはどうしても先ほど言われたマイナス面という要素もありますので、広くまずは県民にアピールをしていくことが大事だということで、デモフライトなどをする機会をふやしたいという話になりました。と同時に、法規制がありますので、そうした操縦する上での法規制の理解についても、ある程度啓発していく必要があるのかなというお話でありました。

そして、若者を長野県にどうやって戻すかという話ですけども、このテーブルの皆さんは

もうほとんどの方が地元でもう、初めからもう地元になりたいという方が大半でした。もちろん大学進学を考えている方もいらっしゃいますけれども、県内で働くまず雇用がやはり大事だというお話になりまして、その中でも今、働き方もいろいろ変わってきておりますので、在宅でできるような仕事ですとか、研究機関を誘致して、信州のリラックスした環境の中で働けるような場があればいいのではないかなという話がありました。

時間がちょっと幾らあっても足りませんでしたので、こういう形でちょっとしっかりとまとめることはできませんでしたけれども、本当に貴重な時間をありがとうございました。

(諏訪副議長) 続いて、4班の発表の生徒さん、お願いいたします。

(4班発表担当)

この4班は、将来どこに住むかという話と、学校と地域のかかわりはどうあるべきかという二つのことを話すことができたんですけども、大人の方とはもちろん、学校の友達なんかとふだん、将来どこに住みたいか、そういう話をする機会は全然ないので、今日こうやって話すことができて本当によかったなと思っています。

自分の班で出た話なんですけれども、やはり学校と地域でかかわれている学校とかかわれていない、かかわりが少ない学校があるのですけれども、やはり地域と学校というのは、ともに相互的な利益を生み出すことのできる関係性にあるという話になって、やはり今後ある学校はさらに交流を発展させていき、かかわりの少ない学校はこれから自分たちが動くなり、自分たちの次の代に託すなりして交流を深めていければいいという話になりました。

また、将来どこに住みたいかという話があったんですけども、自分たちの少し考えてみたところ、自分の学びたい分野の学校が長野県にない、または交通網が少ない、あとほかの班でもあったように遊ぶ場所がないというところが上げられたんですけども、長野県、若干こういう話を聞くと若者受けが余りよくなくて、大人になってから気づく魅力が多いように感じました。

そこから、大人になってから気づく魅力というものを大切にしながら、専門的な分野の学校をふやしていくなどして、若い人たちが長野県にとどまっていたい、また企業ふやすなどして、長野県で就職したいと思える環境をつくっていくことが大切なのではないかという結論に至りました。

今日は本当にありがとうございました。

(諏訪副議長) 続いて、丸山議員さんお願いします。

(丸山大輔議員)

皆さん、自分たちの現在と、そして未来にかかわる話ということで、大変率直な意見を聞かせてもらってよかったなというふうに思っています。感じてはいましたが、やはり長野県は若い人たちにしてみればダサイと言われたときは、若干ショックを受けましたけれども、仕方ないかなというように思います。

やっと打ち解けてきたところで終わりになってしまって、非常に残念ですけれども、これを機会に、ぜひ皆さん政治家を目指すというのも一つの道だなということを感じていただければというふうに思います。 今日はお疲れさまでした。

(諏訪副議長) 次に、5班の発表の生徒さん、お願いいたします。

(5班発表担当)

私たちの班では、学校と地域のかかわりはどうあるべきかということについてまず話して、その中で各校の地域とのかかわりの現状のようなことを出して、特に僕の印象に残ったのは、文化祭などでの花火とかそういうので音の問題について話したところがすごい印象に残って、地域の人に理解してもらおうというので苦労している学校がある反面、梓川高校を初めとして理解して楽しみにしてもらっているという高校もあって、梓川高校は先ほどのプレゼンテーションにあったように、すごい地域とのかかわりを大切にしている高校だったので、地域とのかかわりというのが、そういう学校がどうしても地域に迷惑をかけてしまうこととかあると思うのですけれども、そういうところへの理解とかにもつながっていくんじゃないかなというふうに感じました。

あと、ボランティアに関してで、就職を主にする高校というのは地域に目が向くので、ボランティア活動とかがすごい盛んである反面、進学を見据えている学校は、まず大学で、その後に地域という流れになってしまうので、まだ高校の時点では地域に目が向きにくいというところで考え方が違うという話が出ました。

その次に、若者を長野へというところで、地域のことについて考えたんですが、大都市は選択肢が多いかわりに、長野県は地域や近所とかのかかわりがすごい強くて、今、女性の社会進出とかも盛んになっているところで、そういったことがしやすいのではないのかなという話が出ました。 以上です。

(諏訪副議長) 酒井議員、お願いします。

(酒井 茂議員)

勉強をさせていただいたというふうに思っております。

私も高校の同窓会長を仰せつかっておりますが、こうして高校生の皆さんと意見交換をすることが全然ありません。大いに反省をして、これからこういう機会を設け、若い高校生の皆さんの声を反映できる同窓会にしていきたいと思っております。

それから、地域とのかかわりについて今発表していただいたように、進学校とそうではない学校というのはやっぱり温度差というか、考え方が多少違っているのかなというふうに思っております。

就職が近くにある高校の皆さんというのは、本当にボランティアの活動も盛んにやっていたいて、このボランティア活動も非常に自分のためにも大いに勉強になるというようなこともおっしゃってございまして、大変勇気づけられたところでもありますので、今後も引き続きそんな活動を大いにしていただきなというふうに思っております。

それから、長野県に住むというか、どこに住むという話でいきまして、私は若い女性の皆さんが長野県に住むのを嫌がっているのかなというふうに思っておりましたが、ほとんどの女子高生の皆さんは長野県はいいところだと、嫌な思いは全くないと、ここに住みたいというふうにおっしゃっていたので、ちょっと私の予想とは反して、うれしいなというふうに思っております。なぜかという、やはり人が温かいとか、自然がいいとか、そういうことをおっしゃっていたので、大変ありがたくうれしく思っておりますし、勇気づけられたところでもあります。

いずれにしても、これからは担うのは高校生の皆さんですから、高校生の皆さんを地方創生にしっかり反映していくようなことを、私たちもしっかりやっていかなければならないなというふうに感じたところでもあります。 今日は大変ありがとうございました。

(諏訪副議長) では、最後に6班の担当の生徒さん、発表をお願いいたします。

(6班発表担当)

僕たち6班では、学校と地域のかかわりはどうあるべきかと、若者を長野県へというテーマで議論をしました。

まず、学校と地域のかかわりはどうあるべきかなんですが、こちらの班では、文化祭などの苦情が多いという意見がたくさん出ました。その解決案として、文化祭なので自分たちの学校を紹介するや挨拶などをして、挨拶や地域のお祭りなどに参加をして、顔を覚えてくれれば苦情も減るんじゃないかというのが出ました。また、ボランティア活動などをして地域貢献をするという意見も出ました。

二つ目の若者を長野県へなんですが、こちらのほうは少ししか話せなかったんですが、県内の求人が物すごく少ないという旨を聞きまして、SNSなどを使って企業や長野県の自然など

をアピールして、長野県に定住してくれる人をふやすという意見が出ました。

以上です。

(諏訪副議長) 高村議員、お願いします。

(高村京子議員)

今、発表がありましたけれども、どこの学校でも文化祭にすごく力を入れているんですけども、そこで御近所の皆さんとのお付き合いの仕方というか、そういうところで非常に地域の皆さんとの交流を重ねながら、例えば花火で苦情が出たら、高く上がらないように校庭で背の高いぐらいのところで作る、そういう花火に変えたとか、それから丁寧に御案内を出していくとか、あと逆に今度は地域の皆様のお祭りに出て行って、篠ノ井高校なんかではおみこしの担ぎ手になったりとかということで、そういう地域との交流を文化祭を通して、自分たちの学校の文化祭だけではなく、地域との交流も大事にしているということを伺って素晴らしいことだなと思いました。

また、福島とか東日本の被災地との交流で、文化祭でその地域のものを仕入れて、そして売上げをまたその地域へ寄附として返していくというような、そういう交流もやっている高校もあって、素晴らしい活動だなと思った次第です。

それから、一旦外に大学に行かれたとしても、若いころから高校生ぐらいまでのところで長野県のよさというのをしっかり自分の中にあると、大学卒業してからもまたここへ戻ってくると、長野県に戻ってくるというのを一つの目標にできるので、そういうことを長野県民みんなで、企業も含めてですけれども、そういうことをやっていただくと、また長野県に戻ってきて活動できるかなというような御要望がありました。

以上です。ありがとうございました。

(諏訪副議長)

各班の発表、ありがとうございました。

それでは、代表で発表された議員さんおりますけれども、もし発表されなかった議員さんで発言求められる議員さんいましたらお願いしたいと思いますが。

よろしいですか。

それでは、最後に主催者側になります校長会の内堀会長と、それから垣内議長から意見交換会の様子、そしてまた今の発表をお聞きしての御感想をお聞きしたいと思いますので、まず内堀会長からお願いいたします。

○主催者所感（長野県高等学校長会長）

（内堀会長）

皆さん、お疲れさまでした。

それぞれのところを回ってみさせていただいて、まず県議の皆さん、本当に高校生のさまざまな意見や質問に対して誠実に真剣にお答えいただきましてありがとうございます。また、対等というわけではないのかもしれませんが、気持ち的には対等に話をさせていただいたのではないかなというふうに思っています。

また、参加した生徒諸君も自分の思いをどういう言葉でどういうふうに伝えたいかというようなことを考えながら、物すごく真剣にというか、誠実に話をしている子がほとんど全員だったと思います。

そういう意味では、和やかな雰囲気の中であつたけれども、やりとりや自分の意見の表明といったものに関しては非常に真剣味があつて、すばらしい会議ではなかつたかなというふうに思っているところです。

また、テーマの設定も今回はこういう設定でやりましたけれども、高校生というか子供たちが学ぶ理由もそうでしょうし、我々が大人になつても学ぶ理由もそうだと思うのですが、一つは自分自身がより豊かな生活を送るとか、幸せになるためにはどうしたらいいんだろうかということを考える、それを追求する。それから、もう一つは自分を取り巻く人だとか環境だとか、どうしたらよりよくなるだろうか、自分の代でよりよくして次の代に引き継ぐことによって、地域だとか、日本だとか、地球というものを守っていく。その二つのことのために我々一懸命学んだり、話し合ったり、考えたりしているんだと思うのですけれども、今日のテーマは自分自身のことじゃないんですね。

県議さんもそうですし、高校生もそうだけれども、どうしたらこの地域がよくなるだろうとか、自分たちの後輩がこういうものを残したらよくなるだろうとか、そういう自分を離れて自分以外の人、自分以外のもの、自分も含まれていますけれども、そういったものについて真剣に議論したということに意味があつたのではないかなというふうに思っています。

もちろん、自分自身のことでも高校生まだまだ真剣に自分と向き合つて考えてほしいと思いますけれども、同時に今日みたいに自分以外のこと、自分以外の人、もの、そういったものについても、いつも思いをはせながら真剣に考えるということをしていっていただいたらかなというふうに思っているところであります。

この会の設定に当たりまして、先ほど冒頭でも申し上げましたが、垣内議長さん、諏訪副議長さんを初め、本日御臨席いただきました議員の皆さん、また御支援いただきました県議の皆さん、それから設定にお力を発揮していただきました議会事務局の皆さん、それから校長会の主体性の委員の皆さん、それから本日参加してくれた生徒の諸君、それから本日ここにいらっ

しゃる皆さん全員に感謝を申し上げ、またもし可能であれば来年もやっていただきたいなと思いを述べさせていただいて、私の最後のまとめの言葉としたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。お疲れさまでした。

(諏訪副議長)

内堀会長、ありがとうございました。

それでは、最後に垣内議長から今回の総括も含めて御感想をお願い申し上げます。

○主催者所感、全体総括

(垣内議長)

最初は2時間もやるのというのが私の率直な思いでありました。しかし、時間がたってみますと短かったなというような思いがしております。

そして、少し気がついた、気がついたというか私は思ったわけではありますが、学校というのは社会や国家や地域社会の中で必要な学校が残っていく。昔は海軍兵学校や陸軍士官学校、戦争前は優秀な軍人を育てる、そういう学校が人気があったわけでありました。しかし、終戦終えてから、防衛大学は別としても、そういう学校は消えていった。

私が皆さんと同じころのときの学校というのは受験戦争といわれていまして、私は一学年で500人、50人のクラスで10クラス、中学校であったわけでありました。その中で高校に入れるのは400人程度、あとはみんな落第、落第というか受験で落ちてしまうか、中学生で就職するかという時代の学校でありました。それは、競争社会の中でいい高校へ行って、いい大学へ行って、いい企業、一流企業に就職してたくさんの給料をもらう、それが幸せだというような時代であったわけでありましたから、そういった高校や学校が必要とされてきたというふうに思っています。

しかし、今日話を聞いてみますと、皆さん方の話を聞いて、じっと聞いていますと、ボランティアであるとか、それから国際化というような部分にも少し触れられていました。私は先生方のこの50年、60年にわたる努力によって、学校が社会のために役立つ生徒を育てる、世界の平和を考えるような、国際化を考える子供たちをつくっている学校に長野県の高校は育ったなということを、本当にすばらしいことだというふうに私は思ったわけでありました。

これから、高校再編や何かあるというふうに思います。使命を終えた学校というのは残念ながら消えていく運命があります。昔の寺小屋もそうでありますけれども、あのころはそれを必要としていた人たちがいた時代がありました。最も優秀な寺子屋も消えていったわけです。

ここは冷静に考えていきますと、今の生徒さん、自分の学校を愛して、自分の学校を誇りに思って、地域の皆さんと一緒にあって学校を守るという、そんなことを思っただけならば、

恐らく違う結論がまた出てくるのではないかな。

どうぞ、今日はむしろ県会議員のほうが勉強になったというふうに思っておりますけれども、丸山議員が政治家を目指せと言いましたが、私、小学校の卒業文集で、将来なりたいもの政治家と書いてあった。中学校の卒業文集では成長しました、代議士と書いてあった。代議士というのは衆議院議員のことです。高校生のとき、プータローと書いてありましたけれども、そんな思いをもって、もう今日、県会議員と皆さん方お話しさせていただきましたので、どうぞそんな目標も一つ持っていて、長野県のために頑張っていたきたいと思います。

今日はありがとうございました。

(諏訪副議長)

垣内議長、ありがとうございました。

先程、内堀会長の方から、私たち県議会に温かいお言葉をいただきましたが、逆に今日こうやって開催できましたのも校長会並びに校長会の専門委員会の諸先生方が事務局の皆さんとしっかりと打ち合わせをしていただいて、今日、初めてではございましたけれども、このような機会を設けさせていただきました。司会も含めて、不行き届きな点もあったかと思いますが、この辺は、どうか、友情、同じ長野県民としての友情でお許しいただきたいと存じます。

そしてまた関係する先生、さらにはマスコミ、事務局の皆様も大勢出席していただいて見守っていただいたことにも、心から感謝申し上げる次第でございます。

以上をもちまして、「意見交換会」は終了となりますが、最後に一つお願いがございます。

先ほど内堀先生から宿題もいただきましたが、次のステップに結び付けるためにも、アンケートがございますので、是非ご記入、ご協力をいただければと思います。

以上を持ちまして終了となります。

まだ残暑も厳しいとは思いますが、生徒の皆さん、是非、それぞれの目標に向けて頑張っていていただくことを心から御祈念申し上げながら、お礼の言葉に代えさせていただきたいと思えます。

本日はどうもありがとうございました。